

放送分野を取りまく現状

放送は、平時・災害時を問わず、質の高い信頼できるコンテンツを生み出してきたが、若年層を中心とする「テレビ離れ」、世界規模での動画配信サービスの進展などに伴って、このままでは、グローバルなサービス競争から立ち遅れ、国民・視聴者へのリーチが先細りしていくおそれ。

放送は、同時多数に安定的に提供可能なネットワークを通じて、あまねく全世帯に対し社会影響力を有する、生活に身近で成熟した社会インフラ。テレビは、社会がIoT化していくなかでも、重要な議題を提示し、世論を認知・喚起するなど、人をつなぐ「信頼の窓」としての主要な機能を担っていくことが期待。

2頭の馬(放送・ネット配信)を乗りこなす

放送をあらゆる情報のフロントドアに

公共放送としてのNHKの役割

豊かで良い放送番組を提供することによる
国民・視聴者のニーズへの対応

先進技術を先導することによる
放送の健全な発達への貢献

民間事業者との連携・協力を前提とした上で、災害時や地域に必要な情報を含め、報道・教育などの良質なコンテンツがネットにおいてもいつでも視聴できる環境を整備することが求められているのではないか。

「開かれたNHK」としての先導的役割を発揮しつつ、民間事業者と足並みをそろえて、我が国発の質の高いコンテンツを国内外で視聴できるよう、ネット配信を含むオープンな基盤を目指し、医療・教育等あらゆる分野に変革をもたらすIoT時代において、優れた公共的価値を発信するメディアであり続けるべきではないか。